

道博協ニュース

第3号

発行 昭和50年6月1日
 発行所 北海道博物館協会(事務局)
 札幌市白石区厚別町下野幌
 北海道開拓記念館内
 011(891)0456-9

博物館の未来像を考えよう

倉田公裕

このところ、一九六〇年代に流行した、バラ色の未来論は影をひそめたようだ。

そして、開発や進歩の反省期に入り、むしろ反動的勢いで未来不安論や日本沈没論も盛んである。

博物館界も、この例にもれず、明治百年記念(一九六八年)前後には、空前の博物館建設ブームが起り、その数は急増した。それに加え、新しい教育理念といわれる「生涯教育論」と結び付き、「博物館中心時代」の到来は予想以上に早いという様な論が少なくなかった。

ところが、それら博物館の建設はモニメント(記念碑的)や「人並に持たねば……」という意識で作られたものが少くなく、従ってその面積を誇り、設備を自慢し、豪華な建物を作り満足しているかに見える。

その活動の中心である優秀な人材も揃える。

その活動の中心である優秀な人材も揃えなければ、充分な資料もない、活動運営費も

少ないとあつては、その活動が鈍化し、その存在も影が薄くなるのも当然である。

しかし、数字で見ると博物館利用者も年々増加はしている。それは人口の自然増に伴うものであり、その伸び率としては問題にならないものである。また一般社会人の関心も決して高まったともいえない。

先般発表された、産業構造調査会の予想によれば、昭和七〇年には、博物館は九倍、美術館は六倍の入館者が見込まれるという。まさに、バラ色の未来図である。一体どういう調査をしたのか、にわかに信じられないのであるが、これに対し、博物館人達は、博物館の未来を一体どう考えているのであろうか。

つまり、博物館はいかにあるべきかという問題は、未来論でもあり、未来学的思考である。それはもちろん、博物館学に含まれた問題ではあるが、こうした考究が真剣に考えられているのであろうか。特に、北海道の博物館人か

ら、余りこうした話題を聞いたことがない。もちろん、個々には考えていられるのであろう。それは自分の運命がかかっている未来であるから、当然であり、ヴェイジョンも持たぬ程の程度の低さでもないであろう。博物館人の絶対数も数く、従ってその力も弱く、会合の機会も少く、恵まれない片隅でブツブツい、ながらあきらめきつっているからであろうか。

しかし、こうした問題の解決は、もはや個人や一館だけで処理できるものではない。博物館界全体として、いわば運命共同体として、博物館の未来を考えねばならない処にきているといえよう。そして、我々は、真剣にその未来を予測しておかなければならない様に思われる。

未来を予測するといつても、予測は駿馬の予想や天気の子報ではない、これらは例え知っても、それを変わることができない単なる予想である。ここでいう予測はそれを知ることが力となつて、それが実現される方向へ一歩進ませることである。

つまり、一つの方向であり目標である。それは決して超絶した処にいるものではなく、過去の上に基礎を持ち、現在の延長線上にあるといえるの

ではなからうか。だから、予測は、(1)確実に予測できるもの。(2)ある程度は予測できるもの。(3)まったく予測のできないものに区別し、その範囲を明らかにしておかねばならぬ。そして考えられるいくつもの未来像の中から、より望ましいものを選択し、可能な未来を明らかにすることである。そして、それを実現するための手段を発見し、同時にその障害を見つけ出し解決への努力がなければならぬであろう。

この自分達の未来を自らの力で可能にしない限り、自分の未来の決定を他人の手に渡すことにはならないであろうか。ただただ現在の自己を防衛しかたくなに墨守していたのでは、決して、明るい博物館の未来は到来することがないであろう。つまり、博物館の未来を現在と同じ状態であることとなる。

産業社会に対する反省から情報社会、知識産業時代が来るのは確かといわれる。そこでは、物質より知識、芸術的価値が尊重されることになるといわれる。学歴も高くなり、収入が増えるほど、物質的なものから精神的なものへの欲望の重点が移るものといわれる。ここでそうした社会に対する博物館の未来を真剣に考えて見なければならぬのではなからうか。

(新道立美術館準備室長)

阿寒湖畔水族資料館の紹介

阿寒町が昨年からの建設を進めていた阿寒湖畔水族資料館が二月上旬にオープンしました。一部二階建、総面積一九四、四㎡、内部展示品も含め二、五〇〇万円で建設されたものです。

この資料館は阿寒湖及び北方圏に生息する淡水魚、鳥類、動物を広く紹介することを目的としています。阿寒国立公園の大自然絵画を背景にジオリマ水槽が配置され、ヒメマス、ニジマス、ワカサギ、ヤマベなどを観ることが出来ます。鳥獣類ではタンチョウ、オオワシ、オジロワシ、シマフクロウ、クマガヤ、ヒシクイら天然記念物をはじめとして、約六十種の鳥類とヒゲマ、エゾシカ、エゾモモンガ、エゾリス、シマリス、エゾクロテン等の哺乳類が展示されています。

入館料は大人百円、高校生七十円、小中学生五十円となっています。

(釧路市立郷土博物館 橋本)

博物館づくりの悩み

二月二十八日、三月一日の両日にわたって開かれた郷土資料館等小規模博物館運営についての研究協議会は、私共のような小規模施設における問

題点を取り上げていただき参考になるところばかり、早速資料の受入、整理のうえに活用してまいります。このためにお世話いただいた諸先生方から感謝申し上げます。

さて、この会によるもう一つの成果、出席名簿によると空前管内では十六の室や館がありました。たまたま昼食時に二・三の市町の方と話し合ったことは、こんどは比較的に近い空知でこういう高度のものとはいかなくても、いろいろ悩みや情報の交換をしようではないか、ということになりました。時期は五月になるかも知れませんが、開催することといたしました。

この集りが社会教育関係機関としての機能が、いくらかでも向上するよう。先進都市の皆さんのご指導をお願いいたします。

さて昨年の道博協大会が本市にとって非常に刺激となり、炭鉱博物館建設のために、大きく方向が変わってきました。その一つのこととして、従来の「夕張市郷土資料室」が「夕張市炭鉱資料館」に変えて、名称のうえからも館の性格をはっきりすること、さらには、夕張市で炭鉱博物館建設のための準備はここまでで

きたということのうえに立つて建設を促進したいというねらいです。

しかし、私共は内容的に不十分なものが多くあると思っておりますので、今後とも皆さんのご指導を賜りながらよりよいものにするように努力したいと存じます。

SLとボランティヤ

室蘭港の石炭積出し全盛時代に活躍したSLを、科学館に展示してほしいと数年前より強い要望が多くの方々よりありましたが、何せ大仕事なので見送っておりました。然し今年中にいよいよ姿を消すことになり、この機会を逃して再び求められない貴重な遺産を残そうと急速に横が進展、四月一日より館横の特設展示場に展示しました。

機種はD51、昭和十五年北海道苗穂で製造された九号機の五六〇号です。

当館の建設位置は、市内の繁華街近くにあり、見学場所としては好適な位置ですが、それに比例して、地下埋設物、地上障害物も数多く、加えて館附近は昔、沼を埋立てた地盤の軟弱な

場所を、空車でも九十屯のもの無事に輸送するために、事前に市の土木課が中心になり、約二㎞のコースの危険物障害物を調査の上図面に記入して強度計算で安全を確かめ、輸送前日は当該個所に関係者立合の下ペンキで印をつけ、当日には関係機関の職員約八十名が作業と警備にあり、お洒落で約十五時間にわたる徹夜作業を無事に終了しました。

科学の発展が目覚ましい時代に三十年も前に製造を終えたSLが、なぜこの様に多くの人々に愛されるのか私自身良くわからなかったのですが、D51展示が決つてからの反響と、受入れや搬送のために各方面からの暖かいご協力に接するうちに、最も効率的な悪い時代遅れの機械であればある程、歯車人間となりつつある現代人に、人間臭さを感じて「ホツ」とさせるのが原因であり、又実物によれて喜ぶ子供達の姿を見るにつけても、お世話にたつた多くの皆様に紙上をお借りして、深甚の謝意を表したいと思っております。

(室蘭市青少年科学館 館長 内海 量 夫)

る歴史は古く、その中において特に和人の歴史は、豊富秀吉が天下を統一し、蝦夷が松前藩領となった頃で北海道では早くから開けた所である。従って遺跡、史跡、文化的資料も多い。これらの資料は、市立道北青年の家に「郷土資料室」を開設し公用している。

今回の郷土資料館建設計画は、旧米軍基地にある施設を改修利用しようとするものである。この施設は基地閉鎖後市が国より無償貸付を受け、現在都市公園として年次計画で整備している。同基地は約十四万平方メートルで、教会、売店、倉庫、保育所等の建物があり、教会を郷土資料館、他はファミリースポーツセンター、武道場等青少年の社会教育関係施設に利用する計画である。

郷土資料館を計画している教会は、約三五〇平方メートルの面積があり、稚内の歴史が学べるよう内部改修し、開設する予定で、その基本構想レイアウトについては、北海道開拓記念館の全面協力のもとに、具体化し着工の予定である。

この郷土資料館が完成すると、ノシャップ地区にあるノシャップ寒流水族館、青少年科学館と共に、その利用が多

に期待されている。

(稚内市教育委員会 社会教育課)

稚内市で郷土資料館建設計画

現在稚内市において、郷土資料館建設計画が具体化している。稚内市の発祥地は「宗谷」である。稚内市における原始時代、アイヌ、和人に至

「雑感」

矢野 牧夫

昨年十一月の末頃のことであった。野幌丘陵の最後の野外調査を終えて帰館してきたところ、館の前庭で丁度、昼食を済ませる寸前の小学生の団体に気が付いた。まわりの林の木々は、時おり舞い落ちる雪に小枝をふるわせているような寒い日であったから私にはこのことも達の集団がきわめて異常にみえた。寒さにこごえながら野外で昼食をとっていたのである。

郷土学習の一環として開拓記念館を訪問し快適な環境のなかでの学習を終え、いざ昼食という時になせ寒空の下でこども達が昼食をとらねばならない事態となったのであろうか。いかに限られたスペースとはいえ、数十名の児童に昼食をとってもらえる空間はまだわが館にはあるはずである。

森林公園と施設

木村 敏男

道開拓記念館のフィールドになつている野幌森林公園は大都市近郊としては、世界にも例の少ない天然性の平地林から成っている。

ところで森林公園というのは、いうまでもなく森林あつての公園である。都市公園の主人公が人間であるのに対し森林公園では、森の一本一本の樹木たちがその主人である。単に樹木ばかりではなく、森を覆ういろいろな下草をはじめ、数多くの野鳥や小動物、そして昆虫などにいたるまでいっさいの生物がその主人公なのである。

てきた教師は、昼食のために講堂の使用を館側に要望したようであるが、折悪しく講堂は使用中であつたために断わられてしまった。その結果、止むなく外での昼食となつたのである。

どんなにささやかな規模であつても、我々の活動は、地方自治という大きな営みのなかで位置づけられているはずである。地域住民に密着した博物館活動が叫ばれていても、その実態はまだ大変なものである。

ごく最近も、一年生の児童二〇〇名を風と雨の遠足のなから救うことができた。その多様な要望を充たすためには、たとえばビクターセンタリーのように、一カ所で風土のなりたちやしくみなどを学ぶことのできる施設が、どうしても必要になつてくる。開拓記念館も、基本的にはそういう認識に立つてつくられた公園施設であり、そうでなければ公園の中に設けた意義もないだろう。また、いま公園事務所で建設をす、めている開拓の村も、記念館の屋内展示に対し、野外展示で開拓の歴史と自然を体験しようとするものであり、いわば森林公園のなかに、歴史公園的な側面を加えようという意味をもつものである。

しかし、利用者というものは、実にさまざまな目的や欲求をもっているもので、それ

市立名寄図書館 郷土資料室

これはあつて、内部での連絡をとることが不可能であつたばかりに、「聞いていた」「聞いていない」といふというレベルでのきびしい指摘を翌日から数日にわたつて受けなければ

ばならない結果をもたらした。しかし、雪空の下でこども達が昼食をとらねばならないような事態だけは、二度と繰り返してはならないのである。(開拓記念館 普及課長)

当室は、昭和四十五年八月図書館、プラネタリウム館とともに、「市立名寄図書館」としてオープンした。すなわち当該施設の特徴は、地域に於ける総合的な社会教育コミニュティータターというところにある。しかし当室の活動は、図書館が備えている文献資料を中心とした附属施設とは異なり、博物館的内容をもつ。収蔵資料の基本となるのは、名寄地方の考古学資料である。

その活動の主な点としては(1)資料収集面では、人文・社会・自然科学等、あらゆる分野を通じて、可能な限りの収集を行うという方針の他に、毎年度一つのテーマを定め、それに基づいた方法をとつて(2)整理保存面では、昭和四十七年、四十八年度と北海道開拓記念館の「他館資料のカード化」事業に協賛したのを契機に、以後は、「カード」及び「分類整理」の様式を、当地方の資料体系

にフィットするようアレンジを加え、独自のものとして、収蔵資料の「カード化」を進めている(3)調査研究面では、資料収集の「テーマ」に共通性をもたせながら、より追求した正しい「知識」の体系づくりを目的としている。(4)普及活動面では、常設展示の他(1)、(3)の一つのみとめとして、自分の間は「名寄叢書」の発行を行う方針をほつて、またこれらに関連した、講演会、講習会等を年に二―三回催し、自然保護、文化財保護の必要性をアピールするともに、その意識の定着化を目指している。

また、ごく最近では視聴覚機材(VTR等)を活用して、「もの」としては表れない「技術」面の記録保存にも視点を向けている。

現在、収蔵スペースの狭隘等、いくつかの問題を抱えているが、今後多様化する地域住民要求に、より深い内容で対応できるように、その機能の充実化を目指している。

(市立名寄図書館 郷土資料室 氏江)

主任技師

ゆきすぎた動物愛護

金田 寿夫

動物園に届けられる保護依頼の野生鳥獣の数が数年前から増えてきている。たとえば昭和四十一年には三十一種、八十一以上にすぎなかったものが、四十八年には六十種、百五十六点となり、四十九年には一八月までの期間だけで四十三種、百四点にたつている。このことは、一般市民が自然保護にめざめ、動物愛護に高い関心と理解をしめすものとして歓迎すべきことである。しかし、動物物について正しい知識の欠如から、ゆきすぎた保護行為の見られることも事実である。たとえば五八月にかけて「迷子」として動物園に運ばれてくるカモ、シギ、クイナなどの雛や小鳥の巣仔、巣立ち直後の雛などは、付近にいたにちがいない親鳥達にとつては、まったく迷惑な愛護精神の押しつけといわざるをえないであろう自然保護とは積極的に自然に関与することではなく、あまりのま、を、やさしく見守ることであることを忘れてはならない。

(札幌市円山動物園)

飼育係長)

新会員の紹介

【団体会員】

(石狩支庁管内)

恵庭市郷土資料室

(恵庭市桜町七四)

真駒内駐とん地史料館

(札幌市真駒内)

(渡島支庁管内)

松前城(松前郡松前町松城)

森町公民館(森町字御幸)

(上川支庁管内)

名寄図書館郷土資料室

(名寄市大通南二)

剣淵町公民館郷土室

(剣淵町栄町)

旭川丘村記念館

(市東旭川町本町)

中川町郷土資料館

(中川町字中川)

(胆振支庁管内)

鶴川町公民館郷土資料室

(鶴川町四区)

(日高支庁管内)

様似郷土館(様似町会所町一)

【個人会員】

(日高支庁管内)

標津町水産郷土館

(標津町標津三)

根室

齊藤

契

齊藤

邦典

松崎

水穂

堀江

健二

六角

光雄

正木

英造

【賛助会員】

乃村 芸社

(札幌市中央区北日本ビル内)

丹青社

(札幌市中央区イトビル内)

高桑 華夷治

(斜里町・ホテル斜里館社長)

【退会】

市市室蘭水族館(五十年三月三十一日付)

協会の出版事業

研究者や一般の希望者から要望の多い研究資料を出版してきた協会は、五〇年六月に発行予定の「北海道のやきもの」までで四号になった。

- 1 にしん漁労 (二五〇円)
- 2 縄文文化 (二八〇円)
- 3 炭 鉱 (二五〇円) 発売日未定
- 4 北海道のやきもの (二五〇円) 六月一日発行予定

何れも北海道開拓記念館の特展目録であるが、他館園の研究資料も出版したいので申し込んでください。

なおこれまで発行した一、二号の四九年度版収益は六七六二〇円でした。

昭和48年度北海道博物館協会加入館園入館者数

総入館数 6,844,183人 有料 4,743,436人
無料 2,100,747人

博物館関係 2,528,967人
道水協関係 3,681,060人
科学館関係 576,510人
美術館関係 57,646人

館 園 名	有 料	無 料	合計人数	館 園 名	有 料	無 料	合計人数
○博物館関係				清水町酪農記念館	21,500	21,500	21,500
北大農学部附属博物館	176,564	5,553	182,117	上士幌町立ひがし大雪博物館	23,869	1,327	25,196
北海道開拓記念館	212,961	83,279	296,240	浦幌町郷土博物館		741	741
麦酒史料館		311,596	311,596	釧路市立郷土博物館	31,975	1,035	3,010
当別町開拓郷土館	6,629	3,560	10,089	財団法人阿寒和琴博物館	7,296	100	7,396
市立函館博物館(分館を含む)	145,346	11,331	156,677	厚岸町郷土館	6,166	185	6,351
五稜陸タワー史蹟館	334,016		334,016	標茶町郷土館		6,961	6,961
私設七飯郷土資料館				根室市文化センター		49,041	49,041
尻岸内町郷土博物館	8,530	1,910	10,440	中標津町郷土館		3,594	3,594
戸赤町郷土館		2,522	2,522				
小樽市博物館	17,565	2,830	20,395	○動物園水族館関係			
余市水産博物館	13,421	987	14,408	札幌市山手動物園	495,976	624,678	1,120,654
岩内町郷土館	7,816	1,543	9,359	旭川市旭山動物園	194,846	215,170	410,016
京極町郷土館		21,998	21,998	おびひろ動物園	248,676	10,477	259,153
夕張市郷土資料室	29,429	13,318	42,747	市立小樽水族館	450,111		450,111
旭川市立旭川郷土博物館				財団法人オホーツク水族館	134,270		134,270
美瑛町公民館 録	59,859	37,000	96,859	登別温泉ケーブル株式会社	1,108,876	14,268	1,123,144
大雪観光史料館		20,533	20,533	市立室蘭水族館	164,996	18,716	183,712
富良野市立郷土館		332	332				
美深町郷土博物館	46,556		46,556	○科学館関係			
大雪市立岩谷峠博物館	46,556		46,556	帯広市青少年科学館	47,316	100,451	147,767
社会福祉法人		884	884	小樽市青少年科学技術館	42,263		42,263
北海道家庭学校博物館				旭川市青少年科学館	46,075	50,065	96,140
稚内市立道北青年の家附属郷土資料室		6,394	6,394	室蘭市青少年科学館	163,005	24,289	187,294
新開考古学資料室		52	52	釧路市青少年科学館	44,308	48,500	92,808
網走市立郷土博物館	112,714	4,642	117,356	旭川市立天文台		10,238	10,238
北見市立北見郷土博物館		14,824	14,824				
紋別市立郷土博物館		10,658	10,658	○美術館関係			
じょとこ資料館	2,673	809	3,482	北海道立美術館	24,574	16,372	40,946
浦河町立郷土博物館		2,781	2,781	網走市立美術館	2,180	14,520	16,700
上ノ国町立郷土博物館							
北大農学部附属苫小牧地方演習林標本館							
伊達市開拓記念館	12,126	1,252	13,378				
陸上自衛隊真狩内駐とん地史料館		30,729	30,729				
道立考函トンネル記念館青	8,491	1,368	9,859				
利尻島郷土資料館		1,601	1,601				
洞爺森林博物館	312,062	7,745	319,807				
石 珠 郷 土 館							
白老民俗資料館		182,000	182,000				
苫小牧市青少年センター		84,488	84,488				